

# 日本における戦争映画の分析

伊藤 安代

(平成 19 年 10 月 4 日受理)

## An Analysis of War Movies in Japan

Ito, Yasuyo

(Received on October 4, 2007)

キーワード：反戦映画，好戦映画，暴力映像

Key words: anti-war movie, pro-war movie, media violence

### 1. はじめに

近年，青少年犯罪の凶悪化や犯罪の増加の原因としてテレビ・映画等のメディアに描かれる暴力（以下，暴力映像と略記）の影響が指摘されるようになってきている。この問題に関しては，1960年代以降，アメリカで盛んに研究されている。それらの数多くの研究結果により，暴力映像は攻撃行動を促進するという説が有力となっている。しかし，これらの研究で使用されている暴力映像には偏りがあり，その種類や性質によって異なる効果が得られるという見解もある<sup>1,2)</sup>。

したがって，暴力映像と攻撃行動との関係だけでなく，暴力映像を種類分けし，それぞれどのような特徴があるのかについても研究する必要があると思われる。そこで，まず注目したのが反戦映画である。反戦映画は，戦争の悲惨さをより現実的に描くことにより，「戦争はいけないことである」ということを訴え，戦争という暴力行為を二度と繰り返してはならないという，暴力行為に対する批判的なメッセージを含ませて製作されている。しかし，このような映画も暴力映像であるからして，製作者の意図とは裏腹に，視聴者の攻撃行動を促進させてしまうということも考えられる。

そこで，反戦映画の暴力映像が攻撃行動に与える効果について研究することにした。しかし，好戦映画と反戦映画を客観的な指標で明確に分類することは難しい。

したがって，まず，これまで公開されてきた戦争映画を反戦映画と好戦映画とに分類し，映像の内容や表現方法について比較することで反戦映画における暴力映像の

特徴を見出すことにした。

戦争映画に関する先行研究<sup>3)</sup>では，日本製の戦争映画以外の作品を対象に，反戦映画と好戦映画の映像内容や表現方法の違いについて検討されている。その結果，反戦映画は好戦映画と比較して出血をともなった暴力映像が多く，犠牲者の苦痛を描く割合が高いということがわかっている。

しかし，この研究では，日本製の戦争映画が対象となっていないため，これらの映画についても同様の結果がえられるかどうか検討する必要がある。

したがって，まず，戦争映画に関するホームページや著作本<sup>4,5,6,7)</sup>で紹介されている日本製の戦争映画について調査することにした。

また，戦争映画は，映画が製作された時代にどのようなことが起こったかによって，製作者の意図も変化すると思われる。そこで，戦争に関する重大な出来事として終戦や反戦運動があげられる。日本が終戦したのは1945年である。終戦前と終戦後に戦争映画の内容に変化がみられるのか比較することにした。また，ベトナム反戦・安保条約反対を掲げる学生運動が高揚し，沖縄返還問題で国内が騒然としていた1968年前後にはどのような変化がみられるのかについても比較することにした。

### 2. 方法

戦争映画に関するホームページや著作本<sup>4,5,6,7)</sup>で紹介されている戦争映画をまとめ，それぞれの作品を反戦・好戦に分類し，年代別に分析した。対象としたのは日本製の映画で，他国との合作物やアニメーション映画，記録映画などのノンフィクション映画を除くフィクシ

ン映画のみを対象にした。

### 3. 結果

#### (1) 戦争映画の分類結果

2007年8月までに日本で製作された戦争映画について調査したところ、305タイトルの作品が抽出された。ジャンルとしては、305タイトルの作品中にテレビドラマ作品が11タイトル含まれていたため、それを除く294タイトルが最終的に抽出された。そのうち185タイトル(62.93%)がフィクション映画、33タイトル(11.22%)がノンフィクション映画、残りの76タイトル(25.85%)がアニメーション映画であった(図1参照)。フィクション映画のうち、8タイトルは他のジャンルとの区別が難しかったため、それらを除く177タイトルの作品が本研究の対象となった。分類された映画作品を年代ごとに比較したところ、1940年代から1960年代まで急激に増加し、1970年から1990年代には減少傾向がみられた。しかし、2000年代にまた増加傾向にあるといえる(図2参照)。

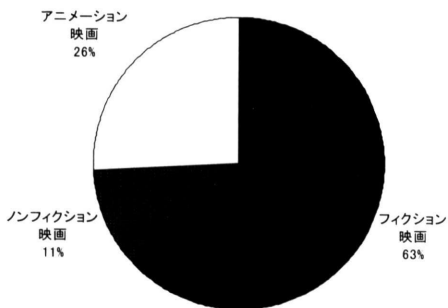


図1. 戦争映画の構成比率

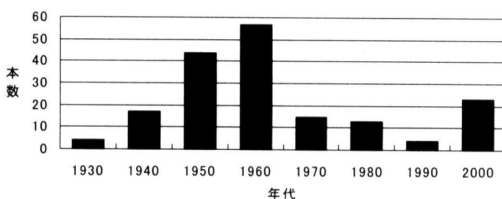


図2. 戦争映画の本数(年代別)

また、対象作品を好戦映画と反戦映画とに分類したところ、映像や資料が少なく、分類が不可能だったものが3本あった。また、これらについても年代別に作品数を

比較し、各年代の傾向について調査した。その結果、反戦映画は敗戦直後から急激に増加していることがわかった(図3参照)。また、2000年代には1990年代の5倍ほどに増加していることもわかった。また、好戦映画については1960年代にピークを迎え、その後は5本以下に低迷し、横ばい状態が続いていることがわかった。

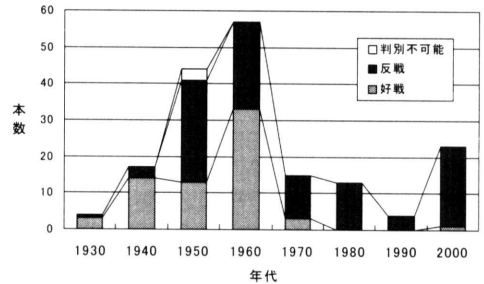


図3. 戦争映画の分類

また、終戦前・終戦後・反戦運動後に戦争映画の内容に変化がみられるのか比較した結果、終戦前は好戦映画が多かったのに対し、終戦後には反戦映画が急増し、反戦運動が起こった後にはその傾向がさらに強まったことがわかった(図4参照)。

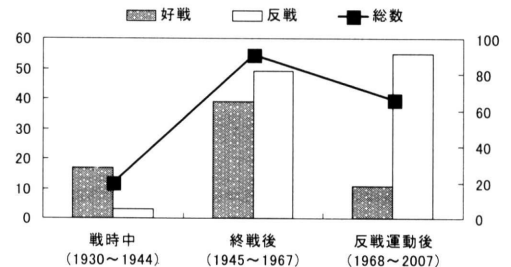


図4. 時代背景による戦争映画の分類

また、映画の内容について分析した結果から、戦争映画の歴史を以下のようにまとめることができる。※ ( ) 内の数字は製作年である。

#### (2) 戦争映画の歴史

##### ①1930年~1944年(終戦以前)

邦画で戦争をテーマとした作品は、終戦前の1930年代から製作・公開されている。それらの多くが戦意高揚映画であり、その特徴として敵がはっきりとスクリーン上に登場しないことがあげられる。戦時中の日本映画には珍しい、戦闘シーンが多く描かれているアクション映

画として「ハワイ・マレー沖海戦」や「加藤隼戦闘隊」があげられる。

【主な戦争映画】五人の斥候兵 (38), 土と兵隊 (39),  
ハワイ・マレー沖海戦 (42), 加藤隼戦闘隊 (44)

【主な邦画作品】伊豆の踊り子 (33), 風の又三郎 (40),  
無法松の一生 (43)

## ②1945年～1959年

1950年代は映画の黄金期であり、国民的な娯楽メディアであったといわれている。作品の主題としては、終戦後の混乱や復員、シベリア抑留、戦犯等をテーマに扱った作品が多く、戦闘シーンや軍隊の内部組織などを表現した作品が少ないことがわかった。しかし、1950年代後半になると朝鮮戦争特需と戦後復興の浪に乗って、娯楽としての映画産業の発展に便乗し、多くの戦争映画が製作された。中でもアクション、コメディ、軍隊風刺テイストを含んだ娯楽性の高い作品が多数制作された。

【主な戦争映画】戦争と平和 (47), ひめゆりの塔 (53),  
二十四の瞳 (54), ビルマの堅琴 (56), 人間の条件 (59), 独立愚連隊 (59)

【主な邦画作品】わが青春に悔いなし (46), 地獄門 (53), 七人の侍 (54), 野火 (59)

## ③1960年～1974年

1960年代になるとテレビが普及し始めたため、映画は斜陽産業となっていたといわれている。この時代には映画メディアの社会的機能が変容し、「健全な娯楽」からごく限られた観衆のニーズを満たすべく、暴力やエロティシズムに重きを置いた作品を大量に生産しはじめたのである<sup>8)</sup>。また、この時代にはベトナム反戦、安保闘争や学園紛争、過激派闘争の影響による太平洋戦争・軍国史観の変貌がみられた。また、石油ショック等の影響による生活体系の変化に影響された日本映画界内部の思想変革により、1970年代に入ると戦争映画の製作本数が減少した。内容も反戦、特攻批判等が中心となり、テーマの非常に濃い作品へと移行して行ったと考えられる。

【主な戦争映画】兵隊やくざシリーズ, あゝ同期の桜 (67), 肉弾 (68), 最後の特攻隊 (70),

【主な邦画作品】用心棒 (61), 黒部の太陽 (68), 男はつらいよシリーズ, 日本沈没 (74)

## ④1975年～1989年

高度経済成長・バブル期の中、製作される邦画の大半を成人映画と特撮・アニメーション作品が占めるようになる中、日本映画界の総力を挙げた大作路線ブームが起こるが、反戦・平和というテーマ主体路線は変わらず、映画本来の持つ娯楽性表現の低い作品が大半を占める。

【主な戦争映画】はだしのゲン (76), 東京大空襲 ガラスのうさぎ (79), 連合艦隊 (81), 零戦燃ゆ (84)

【主な邦画作品】幸福の黄色いハンカチ (77), 蒲田行進曲 (82), 風の谷のナウシカ (84), マルサの女 (87)

## ⑤1990年～現代

バブル崩壊による経済破綻による大手企業スポンサー減少の影響は日本映画界にも顕著に表れる。また国際的有名スターの主演、超大作、SFXやCGなど特殊効果を取り入れた海外映画作品群の大量流入とレンタルビデオの普及、衛星放送系での映画放映の増加が、日本映画興行の人気下降に拍車をかけ、特に製作経費の高む戦争映画の製作本数は一挙に減少する。1995年には戦後50年を記念して「きけ、わだつみの声」のリメイク版や特攻隊員を描いた作品が次々と公開された。

【主な戦争映画】きけ、わだつみの声 Last Friends (95), 地雷を踏んだらサヨウナラ (99), ローレライ (05), 俺は、君のためにこそ死ににいく (06)

【主な邦画作品】あの夏、いちばん静かな海 (91), ものけ姫 (97), たそがれ清兵衛 (02), 誰も知らない (04)

## (3) 戦争映画の種類

本研究で調査対象となった日本製の戦争映画には様々な種類があり、これらの作品を大まかに種類分けすると以下ようになる。

### ①チャンバラ系

個性的な登場人物たちの活躍を描いている。これらの映画ではアクションシーンが重点的に使用されている。1950～1960年代の映画全盛期の娯楽的な戦争映画シリーズを代表する作品群である。

- a. 喜劇系：二等兵シリーズ, 与太郎戦記シリーズ,  
あゝ軍艦旗シリーズ, 拝啓天皇陛下様 (正統),
- b. 極道系：兵隊やくざシリーズ, いれずみ突撃隊

(64), ごろつき部隊 (69)

- c. アクション系：独立愚連隊 (59), 血と砂 (65), どぶ鼠作戦 (62), 殴り込み艦隊 (60), 零戦黒雲一家 (62), 俺は地獄の部隊長 (63), ゼロファイター大空戦 (66), 五人の突撃隊 (61), やま猫作戦 (62), のら犬作戦 (63), 独立機関銃隊未だ射撃中 (63)

## ②特撮・海空戦系

主に太平洋戦争の海・空戦をテーマに描かれている。撮影時に特撮技術を駆使して描いているものが多い。

- a. 海戦主体系：潜水艦ろ号未だ浮上せず (54), 潜水艦イ-57 降伏せず (59), 太平洋奇跡の作戦キスカ (65), 駆逐艦雪風 (64), ローレライ (05), 男たちの大和/YAMATO (05)
- b. 空戦主体系：太平洋の鷲 (53), 太平洋の翼 (63), あゝ零戦 (65), あゝ海軍 (69), あゝ陸軍隼戦闘隊 (69), 零戦燃ゆ (84), ゼロファイター大空戦 (66)

## ③戦史系

戦史の大きな流れに沿って、それに関わった人々の姿を再現している。スター俳優が起用されているケースも少なくない。

- a. 大作系：軍神山本元帥と連合艦隊 (56), 人間の条件シリーズ, 連合艦隊司令長官山本五十六 (68), 戦争と人間シリーズ, 激動の昭和史 沖縄決戦 (71), 連合艦隊 (81), 大日本帝国 (82)
- b. 終戦系：日本敗れず (54), 日本のいちばん長い日 (67), ムルデカ 17805 (01)
- c. 明治大正系：明治天皇と日露大戦争 (57), 天皇皇后と日清戦争 (58), 明治大帝と乃木将軍 (59), 青島要塞爆撃命令 (63), 日本海大海戦 海ゆかば (83)

## ④育成・間諜系

士官・将校・搭乗員たちの訓練, 練成の日々を描いている。また, 諜報戦に命を賭けた男たちの物語。

- a. 海兵系：海軍兵学校物語 あゝ江田島 (59), 海兵四号生徒 (71)
- b. 予科練系：若き魂の記録 七つボタン (55), あゝ予科練 (68), 海軍特別年少兵 (72)
- c. 間諜系：陸軍中野学校シリーズ

## ⑤文学系

戦記文学の代表作を基に戦争・社会・歴史・軍隊の暗部を描いた, 主に反戦色の強い作品である。

日本戦没学生の手記 きけ, わだつみの声 (50), 真空地帯 (52), ビルマの立琴 (各期), 野火 (50), きけ, わだつみの声 Last Friends (95)

## ⑥邦画独自系

日本製の戦争映画でしか観られない, 特攻や原爆などの題材を基にした戦争映画作品である。

- a. 特攻系：人間魚雷回天 (55), あゝ特別攻撃隊 (60), 人間魚雷あゝ回天特別攻撃隊 (68), 花の特攻隊あゝ戦友よ (70), 最後の特攻隊 (70), あゝ決戦航空隊 (74), WINDS OF GOD ウィンズ・オブ・ゴッド (95)
- b. 原爆系：はだしのゲン (各期), 白い町ヒロシマ (85), TOMORROW 明日 (88), 黒い雨 (89)
- c. ひめゆり系：ひめゆりの塔 (各期), 太平洋戦争とひめゆり部隊 (62), あゝひめゆりの塔 (68)
- d. 戦犯系：大東亜戦争と国際裁判 (59)

## ⑦銃後・悲劇・戦後系

戦場での兵士の姿や戦中・戦後の人々の生活, 混乱と悲劇の時代に翻弄される人々の逞しく生きる姿を描いた作品である。

- a. 生活系：二十四の瞳 (各期), 東京大空襲ガラスのうさぎ (79),
- b. 悲劇系：重臣と青年将校陸海軍流血史 (58), 軍旗はためく下に (72), ソ満国境2号作戦 消えた中隊 (55)
- c. 戦後系：戦場のなでしこ (59), 夕凧の街 桜の国 (07)

## 4. 考察

本研究では, 日本製の戦争映画について調査してきた。その結果, 日本製の戦争映画は1930年代から1960年代にかけては好戦映画中心に作成されていることがわかった。しかし, その内容について分析してみると, 1930年から1944年までに製作された好戦映画は戦意高揚を目的として製作されており, これらの映画を視聴することにより, 国民に戦争の必要性を伝えようとする製作者への意図が含まれていると思われる。しかしながら, 終戦

後の1945年から1970年までに製作された好戦映画は娯楽性の高いアクション映画が多く、戦意高揚目的で製作されたものは少ない。特に、1950～1960年代に製作された戦争映画は、アクションシーンを多く取り入れつつも、軍隊を風刺したり、特攻隊を批判したりするといった反戦的なメッセージを含ませる作品が目立っている。

また、日本製の好戦映画においては敵の姿を明確に映像化していないという特徴があげられており<sup>6)</sup>、この特徴は諸外国の好戦映画の特徴と比較する必要があると思われる。

したがって、今後は本研究で抽出された177タイトルのフィクション映画作品を対象に研究を進め、暴力映像の種類とそれによる効果の違いについて先行研究と比較していきたい。

また、本研究の対象外となった戦時中の記録映画などのノンフィクション映画は戦意高揚目的で製作されている。これらの映画は1930年代後半から1945年までに大量に製作されていた。これらの映画を好戦映画として研究対象にした場合、違った結果がえられるとも考えられる。これらの点についても今後研究していきたい。

## 5. 謝辞

本論文を作成するにあたり、温かくご指導いただきました平澤尚孝准教授に心より御礼申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) 湯川進太郎・吉田富二雄 1999 暴力映像が攻撃行動に及ぼす影響—攻撃行動は攻撃的な認知および情動によって媒介されるのか?— 心理学研究, 70, 94
- 2) 湯川進太郎・遠藤公久・吉田富二雄 2001 暴力映像が攻撃行動に及ぼす影響—挑発による怒り喚起の効果を中心として— 心理学研究, 72, 1
- 3) 伊藤安代 2006 暴力映像が攻撃行動に及ぼす影響 東京家政大学研究紀要, 46(1), 151
- 4) 谷川義雄 1993 年表・映画100年史 風濤社
- 5) 大久保義信 2003 徹底分析戦争映画100! バトル&ウェポン 光人社
- 6) 瀬戸川宗太 1998 戦争映画館 社会思想社
- 7) 柳沢一博 1995 戦争映画名作選—第2次世界大戦ガイド 集英社
- 8) 福間良明 2006 「反戦」のメディア史—戦後日本における世論と輿論の拮抗— 世界思想社

## Abstract

This study investigates war movies which were produced in Japan. Through my investigation, I have found three types of war movies. Before 1945, a lot of pro-war movies evinced uplift and a fighting spirit. After the World War II, from 1945 to 1970, many pro-war movies with high entertainment characteristics were created. On the other hand, many anti-war movies were also shown throughout Japan. After 1970, most war movies have tended to be anti-war movies, because of the dramatic anti-war movement.